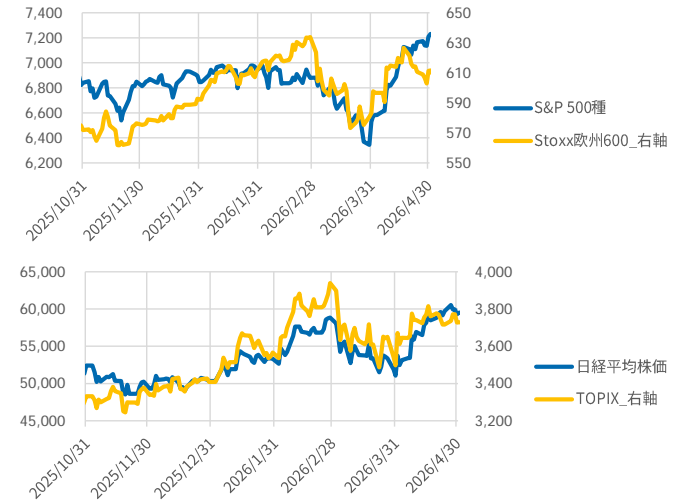
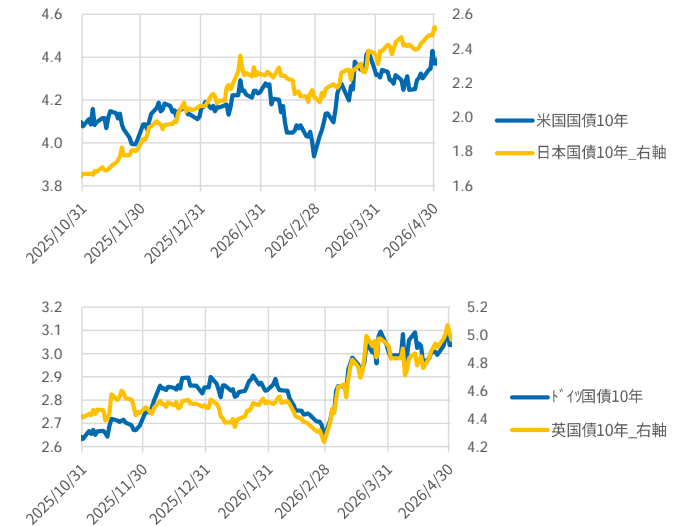


## 2026年4月の金融市場動向・今後の注目点

株式	
<b>米国</b>	<p><b>最高値更新</b> S&amp;P500指数は、月間で約10%上昇し、月末終値で史上最高値を更新。AI関連株を中心としたリスクオンの買いと相次ぐ企業の好決算に加え、中旬には米・イラン停戦協議進展への期待が広がった。月末にはOpenAIの成長鈍化報道やUAEのOPEC脱退表明を受け、反落する場面もみられたが、騰勢は維持された。</p>
<b>日本</b>	<p><b>上昇</b> 日経平均株価は月間で約16%高となった。米・イラン停戦合意による地政学リスク後退やAI関連株高で、27日に終値で初の6万円台を記録した。しかし月末は米利下げ期待の後退や原油高を背景としたリスクオフで反落した。</p>
<b>欧州</b>	<p><b>反発</b> Stoxx欧州600指数は、世界的なリスク選好の強まり、相次ぐ好決算を背景に月間で約5%上昇し、中旬にはイラン戦争開戦後の下落分を概ね回復。ただ、下旬には停戦交渉の膠着により原油価格が上昇、インフレ再燃懸念から株価は反落。最高値更新とはならず、日米比、アンダーパフォーム。</p>
<b>注目点</b>	<p>中東情勢など地政学リスクとエネルギー価格の高止まり、対する主要中央銀行の金融政策スタンスとインフレ動向（金利・為替含む）。企業決算での利益率等の業種間でのばらつき。</p>



債券	
<b>米国</b>	<p><b>長期金利は上昇</b> 10年債利回りは月間で上昇。上旬は、米・イラン停戦期待を背景に利回り低下基調となり、中旬には4.25%前後の水準まで低下。しかし、下旬は停戦協議難航により、原油急騰と利下げ期待後退で金利は上昇転換。</p>
<b>日本</b>	<p><b>長期金利は上昇し、1997年以来の高水準</b> 10年債利回りが前月末比約17bp上昇し、4月末で2.5%台と1997年以来の高水準。米・イラン停戦合意報道を受け、金利が低下する局面もあった、協議難航による原油価格上昇を受け、金利は再上昇。月末は日銀の政策金利据え置き決定後も、債券売り優勢のまま上昇基調が継続した。</p>
<b>欧州</b>	<p><b>長期金利は上昇し、2011年以来の高水準</b> ドイツ10年国債利回りは、インフレ圧力と景気下振れリスクの双方が意識される中、方向感が出にくく、3%前後のレンジ推移。ECB理事会(4/30)前夜には、原油価格（北海ブレント）の120ドル突破を受け、2011年以来、約15年振りとなる3.1%台まで上昇したものの、主要政策金利据え置きが決定され、利回りは月初レベル近辺に低下。</p>
<b>注目点</b>	<p>インフレ懸念の再燃、中東情勢の緊迫化に伴う原油高、伴っての主要中銀の引締め長期化。金利の高止まりが続く中でのスタグフレーション・リスク。</p>



- 当資料は、情報提供を目的として、CCIアセットパートナーズが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

〔出所〕 bloomberg, CCI アセットパートナーズ